

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)

出願人代理人

特許業務法人特許事務所サイクス

殿

あて名

〒 104-0031

東京都中央区京橋一丁目8番7号
京橋日殖ビル8階

PCT見解書

(法第13条)
〔PCT規則66〕発送日
(日.月.年)

17.06.03

出願人又は代理人
の書類記号

A31246M

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/JPO3/04986

国際出願日

(日.月.年)

18.04.03

優先日

(日.月.年)

18.04.02

国際特許分類 (IPC) Int. Cl.⁷ A61K31/18, 31/22, 31/255, 31/341, 31/36, 31/407, 31/4184, 45/00, 31/166, 31/167, A61P35/00, 43/00, C07D235/14, 307/52, 317/58

出願人 (氏名又は名称)

株式会社医薬分子設計研究所

1. これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。

2. この見解書は、次の内容を含む。

I ☒ 見解の基礎II ☐ 優先権III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成IV ☐ 発明の単一性の欠如V ☒ 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明VI ☐ ある種の引用文献VII ☐ 国際出願の不備VIII ☐ 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。

いつ?

上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように?

法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお

補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.2の規定により 18.08.04 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

内藤 伸一

4P

3230

電話番号 03-3581-1101 内線 3492

I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

- | | | |
|-------------------------------------|----------------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> 明細書 | 第 _____ ページ、 | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書 | 第 _____ ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書 | 第 _____ ページ、 | 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ 項、 | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ 項、 | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ 項、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ 項、 | 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面 | 第 _____ ページ/図、 | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面 | 第 _____ ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 図面 | 第 _____ ページ/図、 | 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、 | 出願時に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> 明細書の配列表の部分 | 第 _____ ページ、 | 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
- ☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
- ☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
- ☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
- ☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
- ☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
- ☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
- ☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-9, 11, 13	有
	請求の範囲	10, 12	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	1-9, 11, 13	有
	請求の範囲	10, 12	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-13	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

- 文献1) JP 2001-504492 A
文献2) US 5399487 A
文献3) US 5707985 A
文献4) Jour. Indian Chem. Soc., 1969, Vol.46, No.5, page 411-415
文献5) GB 827446 A
文献6) JP 3-217459 A
文献7) Analytical Chemistry, 1994, Vol.66, No.8, page 1347-1353
文献8) JP 48-30733 A
文献9) JP 5-503721 A
文献10) JP 6-504052 A

請求の範囲10, 12の発明は、国際調査報告で引用された文献1-8により新規性を有さない。文献1には、タンパク質Cの阻害剤として有用なナフタレンスルホンアミド誘導体が記載されており、同第25頁の化合物33で示されるものは、本願請求の範囲10に係る発明化合物、及び該化合物を有効成分とする、本願請求の範囲12に係る医薬発明に該当するものである。文献2には、抗血液凝固薬として有用なナフタレンスルホンアミド誘導体が記載されており、その中でも、table 2及び3には、本願請求の範囲10及び12に係る発明に該当するものが記載されている。文献3には、免疫疾患や炎症に有用な化合物として、ナフタレンスルホンアミド誘導体が記載されており、その中でも化合物15及び35で示されるものは、本願請求の範囲10及び12に係る発明と同一である。文献4のtable 1及び2には、抗菌剤として有用なナフタレンスルホンアミド誘導体が記載されており、該誘導体は、本願請求の範囲10及び12に係る発明と同一である。また、文献5のクレーム3、文献6の表4中の実施例4、文献7の化合物49及び50、文献8の実施例9には、それぞれ、本願請求の範囲10に係る発明化合物に該当するものが記載されている。

請求の範囲1-9, 11, 13の発明は新規性及び進歩性を有する。文献9及び10には、抗腫瘍剤として有用な、プロテインキナーゼ阻害活性を有する化合物が記載されているが、本願発明医薬の有効成分に該当するナフタレン骨格を有するものは記載も示唆もされていない。